

降雪に関するレーダーと数値モデルによる研究（第17回）プログラム

表層雪崩や着雪などの災害を事前に予測するためには、新積雪の物理量が必要である。そのためには、現在の気象モデル内では十分に表現されていない降雪形状の物理量を広域で予測する必要がある。実際に測定される降雪・新積雪物理量と気象モデル内で予測される変数との関係について、またそれらがレーダーによる降雪雲の構造とどのように対応づけられるのか、そしてそれらは将来的に気象モデル内の雲物理過程の改良にどのようにつながられるか、観測、モデリングの両方から議論する場を提供したい。

このワークショップは科研費基盤研究(C)『気象モデルからの雲物理過程を考慮した新積雪物理量推定手法の開発(研究代表者:中井専人)』の支援を受けています。

開催日時 2018年11月20日(火) 13時～16時40分終了予定
2018年11月21日(水) 9時20分～12時10分終了予定

場所 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 大会議室（新潟県長岡市）
住所 新潟県長岡市栖吉町前山187-16
電話 0258(35)7520(代表)

11月20日 (火)

13:00

主催者あいさつ 事務連絡

13:05 セッション1：微物理と雲構造

① 本吉弘岐(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター)
長岡における地上観測による降水系と降雪粒子の比較

13:45

② 石坂雅昭(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 客員研究員)
2018年北陸集中豪雪時の降雪粒子と雲物理過程の現象論

14:25

休憩

14:40 セッション2：計測

③ 中井専人(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター)
全粒子ロギングでわかる光学式ディストロメーターの計測特性

15:20

④ 勝俣昌己(海洋研究開発機構 地球環境観測研究開発センター)
Parsivel及びLPMを用いた雨滴粒径分布観測で見えたデータ特性

16:00

⑤ 熊倉俊郎(長岡技術科学大学 環境社会基盤専攻)
光学反射を利用した固体降水測定機器の開発と出力の物理量化について

16:40

11月21日 (水)

9:20

事務連絡など

9:25

セッション3：雲物理と新積雪物理量

⑥ 中井専人(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター)
降雪粒子情報からの新積雪物理量推定は可能か：Introduction

9:50

⑦ 山口悟(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター)
降雪の比表面積の測定 –降雪の形状を表す物理パラメータを探して–

10:30

⑧ 橋本明弘(気象庁 気象研究所)
気象モデルを用いた新積雪物理量推定の試み

11:10

⑨ 三隅良平(防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門)
東京スカイツリーにおける雲・降水の観測

11:50

⑩ 総合討論

12:10

終了予定

13:10

構内見学 (ご自由にご参加ください)

越後交通バス 時刻表

長岡駅東口 → 前山町入口		前山町入口 → 長岡駅東口	
8:40	8:53	12:43	13:05
9:40	9:53	13:38	13:56
11:10	11:23	14:43	15:01
12:10	12:27	15:38	15:56
13:10	13:23	17:08	17:26
14:10	14:27	18:13	18:31

栖吉行き 長岡駅東口時刻表 <https://bit.ly/2yB89T4>

長岡駅東口行き 前山町入口時刻表 <https://bit.ly/2QNtdx5>

ながおかバス